

熊野神社

地区センターを過ぎると、道の右手に東神奈川公園があります。この公園のすぐ向こうに、熊野神社が見えてきます。この神社は、もと権現山にありました。

平安時代に、紀伊の熊野権現を招いたことによる、といわれています。その後、江戸時代の中頃に金蔵院の境内に移され、明治初めの神仏分離令により、金蔵院から分かれしました。

下の「金川砂子」の「熊野社弓矢神楽」図は、江戸時



「金川砂子 熊野社弓矢神楽」
国文学研究資料館所蔵

代後期の神社の祭礼のにぎわいが描かれています。社殿の脇で神楽が舞われ、参道の東側にみこしが置かれています。現在の社殿は戦後再建されたものですが、境内にはイチヨウの古木などが残っています。



金蔵院

金蔵院は熊野神社の北側にあります。しかし、江戸時代は東西に並んでいました。「金川砂子」にその様子を見ることが出来ます。この図によると、金蔵院の境内は今より広く、門の位置も熊野神社と



「金川砂子 金蔵院熊野社」 国文学研究資料館所蔵

並んでいました。そしてこの門まで、街道から参道が延びていました。左中段は、昭和四十年（一九六五）につくられた現在の表門です。

東光寺

東光寺の本尊はもと太田道灌の守護仏でしたが、道灌の小机城攻略後、小田原北条氏の家臣である平尾内膳がこの仏を賜り、東光寺を草創したといわれています。

また道灌は内膳に本尊を与えるに際し、「海山をへだつ東のお国より、放つ光はここもかわらじ」との歌を詠んだといわれ、この歌が東光寺の名称の由来とも伝えられています。



神明宮

江戸時代の神明宮は能満寺に所属していましたが、明治初めの神仏分離令により分けられました。

かつて境内を流れていた上無川に牛頭天王の御神体が現われ、洲崎大神およびこの神社に牛頭天王を祀ったとの伝承もあります。また、境内にある梅の森稲荷には、若い女旅人にまつわる哀れな話も伝わっています。



能満寺

東光寺の前を通り、さらに東へ進むと、能満寺があります。

能満寺は、鎌倉時代の創立とされています。

その由来は、内海新四郎光善といふこの地の漁師が海中から虚空蔵菩薩を拾い上げ、これを祀ったと伝えられています。



良泉寺

能満寺を後に東へ向かうと、良泉寺の塀に突きあたります。

この寺には、次のような話が伝わっています。開港当時、幕府から外国人宿舎にするように命ぜられた住職は、屋根をはがし、修理中との口実でこれを断ったといわれています。



笠程稲荷神社

良泉寺を左に折れ曲り、京浜急行のガード下をくぐり抜けると、笠程稲荷神社です。

この神社の名前には、次のような由来があります。笠をかぶった人がこの前を通ると、不思議に笠が脱げ落ちたそうです。そのため笠脱稲荷と呼ばれるようになり、その後、笠脱を笠程に改めたといわれています。



長延寺跡・土居跡

京浜急行・神奈川新町駅の近くに、神奈川通東公園があります。ここが「神奈川宿歴史の道」の終点です。

昭和四十年（一九六五）に移転するまで、ここに長延寺が建っていました。この寺は、開港当時、オランダ領事館に充てられました。

また、このあたりは、神奈川宿への江戸からの入口にあたります。

下の図は、神奈川本陣・石井家に伝わった土居の絵図です。街道両脇に土盛りがされ、その高さは約二・五メートル。その上には矢来が設けられていました。



「神奈川宿入口土居絵図」 神奈川県立公文書館所蔵

